

# 学会参加報告

## ～日本在宅薬学会編～



今回私たちは、7月17日～18日に行われた「第9回日本在宅薬学会学術大会」に参加してきました。本学会では、薬剤師が自ら調剤を担当した患者様の状態を確認し、効果の確認や副作用の有無のチェックを行い、それらの結果を薬学的専門性(薬理学・薬物動態学・製剤学)を生かして解析した内容を医師や看護師、患者様や家族に伝え、よりよい薬物治療の在り方を目指すという、新しい薬剤師の在り方を具現化しようとしてきました。今回は発足の地である大阪で、医師や歯科医師、薬剤師をはじめとする多職種の方々が集い、刺激であふれる学会となりました。

クリエイト薬局石神井公園駅前店 山崎 正貴さん

### 第9回日本在宅薬学会学術大会

【日時】7月17日～18日

【場所】グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

【主催】一般社団法人 日本在宅薬学会

【参加総数】1,442名

【大会テーマ】薬剤師の果たすべき使命、負うべき責任

【内容】



#### ポスター発表



当社から1演題のポスター発表を行いました。今年度から指導料を算定できるようになった、特別養護老人ホーム(特養)における薬剤師による薬剤管理の介入という、タイムリーでホットな内容ということで、理事長の狭間先生からも質問を頂きました。また、これから特養を始める方、現在特養を持っている方と情報交換ができ、お互いに参考になる点を発見できました。来年は口頭発表できるように、在宅チームでは新たな事例を集めています。

#### 企業ブース



企業ブースでは最新の分包機や監査機器等、対物業務を楽にしてくれる機械から、聴診器や血圧計といった対人業務をサポートしてくれるツールが展示されていました。私は展示を見て、半自動血圧計とパルスオキシメーターを購入しました。現在、在宅施設でこれらの道具と聴診器を使用し、喘息症状がある患者さんの呼吸音、SpO2、脈拍をチェックし、薬が処方される前後の患者様の状態の確認と、薬効および副作用の評価に役立っています。施設看護師さんからも「患者さんをしっかり見てくれてありがとう」と言われるようになりました。

今回の学会参加者から聞こえてきたのは、今まで医師や看護師に「任せっきり」となっていた仕事を、薬剤師が一步踏み込んで共同して患者様の状態を把握していくことの必要性を感じたという声や、多職種と連携することを他職種から求められていることに気付けたという声でした。薬剤師の仕事は、「対物業務」から「対人業務」へシフトすることを国から求められています。自分自身、今後の薬剤師・薬局の在り方はどうあるべきなのかを深く考えさせられました。同時に、全国で頑張られている薬剤師をはじめとする先生方に勇気を頂きました。来年の学会はパシフィコ横浜(神奈川県)で開催されます。今後の薬剤師の在り方を考えているという方はもちろんのこと、まだ学会に参加したことのない方でも楽しめる学会です。敷居は高くないのでぜひ参加してみてください。



左から  
後藤 良太リーダー(在宅医療チーム)  
岡田 直子さん(クリエイト薬局浜松南浅田店)  
山崎さん(クリエイト薬局石神井公園駅前店)  
渡部 美輪さん(クリエイト薬局市ヶ尾在宅センター店)  
小川 翔薬局長(同上)  
竹川 亮薬局長(クリエイト薬局相模原五丁目店)